

— 千葉県袖ヶ浦市 —

中 六 遺 跡 (14)

— 蔵波地区宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書 —

2013

袖ヶ浦市教育委員会

序 文

袖ヶ浦市は、東京湾に面する内房地区のほぼ中央に位置し、温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれ、多くの人々が暮らしを営んでおります。現在では、湾岸部に多くの工場が建ち並び、東関東自動車道館山線・東京湾アクアラインの開通により新たな人・物の流れが生まれ、人口も微増を続けております。

このように発展を続けている袖ヶ浦市ですが、私たちを支える多くの先人達が、この地に暮らしていたことを忘れてはなりません。

本市には、3万年前の時代から人々が暮らしていたという事実に、驚く市民は少なくありません。現代とは自然・社会環境がまったく異なる時代に、どのような暮らしを営み、何を感じていたのか。それを明らかにし後世に伝えることは、地域に生きる市民・行政が協力し、共に実現すべき大きな目標であると痛感しております。

そのために現在、袖ヶ浦市では文化財の保護、公開・活用に重点を置き、様々な事業を行っております。埋蔵文化財の発掘調査もその一環です。

その成果を多くの方々の協力のもと、報告書という形にすることができました。本書が多くの方々の目に触れ、袖ヶ浦市の歴史資料として活用されることを願います。

最後になりましたが、本書を作成するために、ご協力いただいた方々をはじめ、ご指導いただいた千葉県教育庁教育振興部文化財課の方々に、心から御礼申し上げます。

平成25年3月

袖ヶ浦市教育委員会

教育長 川 島 悟

例 言

1. 本書は、千葉県袖ヶ浦市蔵波1295番地28他に所在する中六遺跡（遺跡コード:S G 013）第14次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、蔵波地区宅地造成事業に伴って行われ、千葉県教育委員会の指導のもと、袖ヶ浦市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査期間と面積、整理作業期間の担当者は以下の通りである。

〔本調査〕 664㎡／2,000㎡
〔調査期間〕 平成23年 8月22日～同年 9月30日
〔担当者〕 前田雅之
〔整理作業期間〕 平成24年 5月30日～平成25年 3月15日
〔担当者〕 田中大介・前田雅之
4. 本書の執筆は、前田雅之が担当した。
6. 本書の挿図のうち、第2図は国土地理院発行 1：25,000地形図「姉崎」の写しを、第3図には袖ヶ浦市発行 1：2,500地形図（No.10、No.15）を、それぞれ部分的に使用した。

凡 例

1. 本書で使用している遺構番号は、基本的には発掘調査時のものを踏襲している。発掘調査時に用いた遺構コードは以下の通り。

S I	住居	S K	土坑
S D	溝状遺構	P	ピット
2. 遺構実測図の縮尺は、住居は全て1／80に統一し、溝状遺構は1／160とした。
また、各挿図のスケールに縮尺率を記した。
3. 遺物図の縮尺は原則として以下の通りである。

土器実測図	1／4	鉄製品実測図	1／2
-------	-----	--------	-----
4. 遺物写真の縮尺は、土器は約1／3、鉄製品は1／2となっている。
5. 写真図版中の遺物番号は挿図中の遺物番号と整合している。
6. 遺構実測図中のスクリーントーンは焼土範囲を示す。破線は硬質面範囲を表す。
7. 遺構実測図や全体図中の略記号が示すものは以下の通り。

K	攪乱	T	トレンチ
---	----	---	------

本文目次

序文

例言・凡例

第1章 序章

第1節 調査に至る経緯	1	第2節 調査組織	1
第3節 遺跡の立地と周辺の遺跡	2	第4節 調査グリッドの設定	4
第5節 調査の方法	4	第6節 調査の沿革	6

第2章 検出された遺構と遺物

第1節 調査概要	8	第2節 調査結果	8
----------	---	----------	---

第3章 総括

表目次

第1表 出土遺物一覧表

挿図目次

第1図 中六遺跡周辺遺跡	第2図 中六遺跡グリッド区割図
第3図 中六遺跡調査区位置図	第4図 中六遺跡(14)全体図
第5図 SI037床面完掘・遺物出土状況図	第6図 SI037掘り方完掘状況図
第7図 SI038床面完掘・遺物出土状況図	第8図 SI038掘り方完掘状況
第9図 SI038焼土・炭化材分布図	第10図 SI039床面完掘・遺物出土状況図
第11図 SI039掘り方完掘状況図	第12図 SI039焼土・炭化材分布図
第13図 SD001・002完掘状況図	第14図 出土遺物実測図1
第15図 出土遺物実測図2	第16図 出土遺物実測図3

写真図版目次

- 図版 1 遺跡全景・SI037 遺物出土・SI037 床面完掘・SI037 掘り方完掘・SI038 焼土、炭化材
SI038 遺物出土状況・SI038 床面完掘
- 図版 2 SI038 掘り方完掘・SI039 焼土・SI039 遺物出土・SI039 床面完掘・SI039 掘り方完掘
SD001、002 完掘・調査区南東壁セクション
- 図版 3 出土遺物①
- 図版 4 出土遺物②
- 図版 5 出土遺物③

第1章 序章

第1節 調査に至る経緯

平成23年4月26日、千葉県袖ヶ浦市蔵波地区において宅地造成に伴う埋蔵文化財の所在の有無について問い合わせがあった。照会地は周知の埋蔵文化財である中六遺跡に該当する旨を回答。平成23年5月31日付けで株式会社新昭和 代表取締役 松田芳彦より、千葉県教育庁教育長宛に発掘調査の届けが提出された。同年6月15日から6月23日に確認調査を実施した結果、竪穴住居5軒（古墳時代前期）が確認された（平成23年度袖ヶ浦市市内遺跡発掘調査報告書）協議の結果、対象地2,000㎡の内、664㎡において、袖ヶ浦市教育委員会により本調査を実施することとなった。

第2節 調査組織

発掘調査

平成23年度（発掘調査）

教 育 長	川 島 悟	教育部長	及川政登己
教育部次長	篠原 幸一	生涯学習課長	武井 隆文
生涯学習課主幹	光江 章		
主 査	西原 崇浩 桐村久美子		
副 主 査	室武 顕		
主 事	前田 雅之（調査担当者）		

整理作業

平成24年度（整理・報告書刊行）

教 育 長	川 島 悟	教育部長	茂木 好明
教育部次長	篠原 幸一	生涯学習課長	井口 崇
生涯学習課班長	西原 崇浩		
主 査	桐村久美子		
主任主事	田中 大介（整理担当者）		
主 事	前田 雅之（整理担当者）		

第3節 遺跡の立地と周辺の遺跡

千葉県袖ヶ浦市は、千葉県の東京湾沿岸のほぼ中央にあり、茨城県南部から西上総地方のほぼ全域まで広がる下総台地の南縁部に位置する。

袖ヶ浦市の台地は、北を養老川、南を小櫃川によって開析されることにより形成された台地で、袖ヶ浦台地と呼称されている。また、小櫃川によって形成された沖積地の下流域は、肥沃な低地として発達し、台地上の密度の濃い遺跡群を形成する要因ともなっている。

中六遺跡は袖ヶ浦台地の中央部に位置し、標高40～45mほどの平坦地に展開している。眼下には蔵波川を臨み、水源として利用されたと考えられる。また、海岸線までは2kmほどと、海産資源の利用にも適している。

中六遺跡は現在までの調査により、旧石器～平安時代に至る遺物・遺構が検出されている。ここでは中六遺跡周辺における、各時代の遺跡について概観していく。

中六遺跡の旧石器時代石器はⅢ層下部～Ⅵ層上面から剥片が出土している。

中六遺跡と同じ台地上においては、約1km西の百々目木B遺跡で、大規模な石器集中ブロックが出土している。Ⅲ層下部～Ⅳ層の限られた範囲に2,000点以上の石器が出土した。第1ブロックからはⅢ層を中心として石器群が出土し、槍先形尖頭器が2点出土している。中六遺跡第1次調査ではⅢ層中より東内野型の槍先形尖頭器が出土しており、その比較検討が必要である。

谷を挟んだ1kmほど北には美生遺跡群があり、複数の地点から旧石器時代石器が出土している。特に第6地点においては、Ⅲ層上部～Ⅳ層にかけて、ナイフ型石器群から細石刃石器群への変遷が伺える良好な資料である。

縄文時代早・前期に目を向けると、打越岱遺跡、角山遺跡、伊丹山遺跡、正源戸B遺跡などがある。

中六遺跡と同じく、条痕文期の炉穴が出土したのが打越岱遺跡である。条痕文期の竪穴住居も検出され、中六遺跡と併行して存在したと思われる。角山遺跡・伊丹山遺跡には撚糸文・条痕文期の炉穴が検出されている。それぞれ、中六遺跡から小支谷を隔てた500m南西に位置しており、密接な関係があったと思われる。

縄文時代中～晩期になると、山野貝塚、宮ノ越貝塚などの後期大型貝塚が、中六遺跡の約1km南に形成された。中六遺跡には僅かではあるが、後期縄文時代土器が出土しており、関連が伺える。

弥生時代後期から古墳時代には台地の縁辺上に集落が形成されるのが、特徴的である。美生遺跡群・山王辺田遺跡・台山遺跡・神田遺跡などがある。美生遺跡群第1・6地点からはそれぞれ、50軒ほどの古墳時代竪穴住居が検出されており、周辺における拠点的な集落であったと思われる。神田遺跡からは3基の古墳が検出されており、勾玉や管玉が出土した。中六遺跡から谷を挟んだ500mほど北に所在し、密接な関係が伺える。山王辺田・台山遺跡は中六遺跡の3km西の台地縁辺部に位置する。いずれも50軒を超える古墳時代前期竪穴住居が検出されている。特に台山遺跡は住居の重複が顕著であり、古墳時代の土器編年を考慮する上で良好な資料である。その他、古墳時代中・後期の遺跡は周辺では少なくなるが、美生遺跡群第1地点・西ノ窪遺跡などでは竪穴住居が検出されている。

奈良・平安時代では台地から内陸部の平地へと集落が移り、中六遺跡周辺では遺跡が少なくなるが、雷塚遺跡や神田遺跡などでは集落、方形区画墓などが検出されている。



- | | | | | | |
|--------|------------------|----------|---------|---------|----------|
| 1 中六遺跡 | 2 百々目木B遺跡 | 3 美生遺跡群 | 4 角山遺跡 | 5 伊丹山遺跡 | 6 正源戸B遺跡 |
| 7 山野貝塚 | 8 根形台遺跡群 (宮ノ越貝塚) | 9 山王辺田遺跡 | 10 台山遺跡 | 11 神田遺跡 | 12 雷塚遺跡 |

第1図 中六遺跡周辺遺跡 (S = 1 : 25,000)

第4節 調査グリッドの設定

中六遺跡の調査を実施するにあたっては、第11・12次調査に基づき、遺跡全体を包括するように世界測地系座標Ⅸ系に基づく基準点測量によって、20m方眼による調査グリッドを設定した。

グリッドは、20m四方の大グリッドを東西900m、南北900mの範囲で区割りを行い、東西方向の45区分をA～Z、AA～AS、南北方向の45区分を1～45と呼称した。さらに20m四方の大グリッドを2×2mの小グリッドに区分けし、北西隅から00・01・02・03……北東隅を09、南西隅を90、南東隅を99に割り振り、100区に分割した。

なお、グリッドの基点となるA1-00グリッドは、測地系座標Ⅸ系でX = -62,380、Y = 15,360にあたる。

第5節 調査の方法

1. 発掘調査

遺構の図面は20分の1縮尺を基本とし、平面図は平板測量により作成した。また、遺物の取り上げに際しても基本的に同じ縮尺で行い、遺物の詳細図や遺構によっては、適宜状況に応じて作図している。遺構内から出土した遺物についても、20分の1縮尺による平板測量にて取り上げた。

遺構には、前回までの調査から連続する3桁の一連の番号を付し、番号の前に遺構の略号として、竪穴住居をS I、炉穴や土坑をS Kとし、3桁の数字で遺構内容を遺物に注記した（例 SI001）。

遺構から出土した遺物の中で出土位置や状況を記録したものについては、4桁の数字を付して取り上げた。これと別に、一括して取り上げたものについては、おおまかな出土位置や状況を台帳に記録し、1番から一連の数字を付している。したがって、遺物に記載された注記と遺物台帳を照合しなければ出土状況を把握できないようになっている。

出土遺物への注記方法は、次のとおりである。遺跡コード（調査地点）- 遺構名- 遺物番号（一括取り上げ数字）を記した。（例 SG011-SI001-0001又は1）

発掘調査の写真撮影は、中型カメラをメインカメラとし、フィルムは白黒6×7判を使用した。サブカメラは35mm小型カメラを使用し、フィルムは白黒とカラーリバーサルを用いた。

2. 整理作業

土器の修復には、安定性や強度等を考慮し、歯科用石膏を用いた。

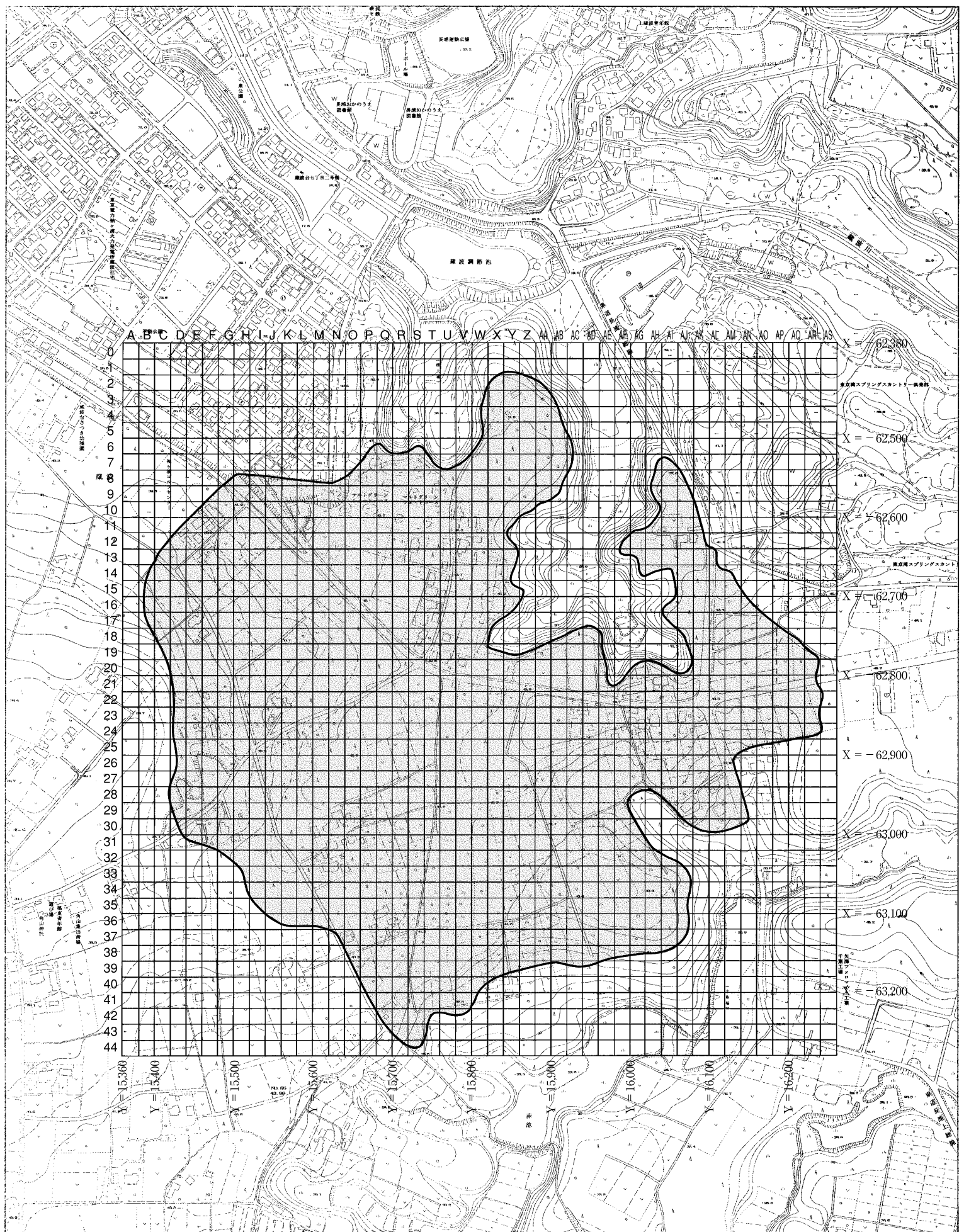
土器実測は、手測り実測を行い、遺構・遺物は手取りトレースにより製図した。

遺物の写真撮影は、デジタルカメラを使用した。

3. 報告書の作成

版下はトレース挿図、レイアウト用紙にて割付を行ったが、一部DTP編集を行った。

本書に掲載した土器等の遺物写真は、デジタルカメラで撮影し、イラストレーターにて割付を行った。



第2図 中六遺跡グリッド区割図 (S=1:6,000)

第6節 調査の沿革

第1次調査（昭和61年度、君津郡市文化財センター）

検出した遺構：旧石器時代包含層2箇所、縄文時代早期陥穴4基、道路2条

第2～5次調査（昭和62～平成3年度、君津郡市文化財センター）

検出した遺構：縄文時代早期炉穴14基・土坑46基、古墳時代竪穴住居9軒、道路11条

第6次調査（平成8・9年度、千葉県文化財センター）

検出した遺構：旧石器包含層2箇所、縄文時代土坑2基、弥生～古墳時代溝状遺構5条・土坑4基、奈良・平安時代道路1条

第7次調査（平成11年度、君津郡市文化財センター）

検出した遺構：旧石器時代石器集中地点1箇所、縄文時代早期炉穴4基、弥生時代方形周溝墓1基
溝状遺構2条、道路1条、土坑16基

第8次調査（平成17年度、袖ヶ浦市教育委員会）

検出した遺構：土坑1基、円墳（円形周溝状遺構）1基、道路1条

第9次調査（平成18年度、袖ヶ浦市教育委員会）

検出した遺構：土坑7基

第10次調査（平成19年度、袖ヶ浦市教育委員会）

検出した遺構：古墳時代前期竪穴住居1軒、陥穴1基、平安時代火葬墓2基、土坑9基

第11次調査（平成20年度、袖ヶ浦市教育委員会）

検出した遺構：縄文時代早期陥穴4基・炉穴15基・土坑17基・包含層2箇所（2,400㎡）
縄文時代前期竪穴住居2軒、古墳時代前期竪穴住居14軒、古墳1基
古墳時代溝状遺構2条

第12次調査（平成20・21年度、袖ヶ浦市教育委員会）

検出した遺構：縄文時代早期炉穴237基・陥穴6基・土坑27基、古墳時代前期竪穴住居26軒
円墳1基、方墳2基、古墳時代後期土壙墓1基

第13次調査（平成23年度、袖ヶ浦市教育委員会）

検出した遺構：古墳時代前期竪穴住居5軒



美生遺跡群

大谷古墳群

中六遺跡範囲

蔵波調節池

第3図 中六遺跡調査区位置図 (S1:4,000)

東京大学工学部建築学系

調査区番号

蔵波

大谷公園

15 20639

15 0639

16 0000

第2章 検出された遺構と遺物

第1節 調査概要

中六遺跡は蔵波川を臨む台地上に立地し、古墳時代前期に属する竪穴住居を3軒、近世の溝状遺構を2条検出した。確認調査時において、竪穴住居としていた2軒は近世の道路の誤りであった。竪穴住居は主軸が同一方向を向いており、同時期にあったと思われる。溝状遺構は覆土直上に宝永の火山灰が堆積しており、近世のものであると推定される。出土遺物は古墳時代土師器が主体である。その他、鉄製品として刀子が1点出土している。

調査区全体は畑地となっており、削平の影響を受けているが、漸移層（Ⅱc層）以下は良好に観察できた。

第2節 調査結果

SI037

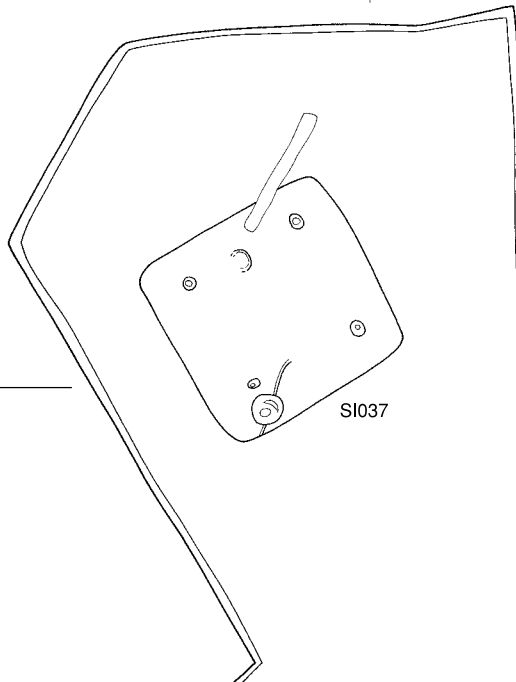
遺構（第5・6図）：O13グリッドに位置している。後世の削平を大きく受けており、床面直上での検出となった。壁面は残存していない。床面は暗褐色土で充填されており、検出は容易であった。平面形態は隅丸方形であり、長軸長5.5m、短軸長5.5mとほぼ正方形となる。主軸はN-30°-Wを向く。床面には貯蔵穴1基、柱穴を4基検出できた。梯子穴は検出できなかった。床面は全体的に硬質化しているが、特に南東壁付近、及び住居西側が硬質化する。他の竪穴住居と異なり焼土の堆積や炭化材はないが、削平の影響のため定かではない。柱穴はほぼ正方形に配置され、深さは0.5m前後である。柱痕は検出されず、住居廃棄時に抜き取られたようである。平面形態は円状であり、直径約0.4m前後である。炉は住居北側において検出された。焼土に覆われており、残存する深さは0.2m程度である。中六遺跡の以前の調査では、多くの住居で数cmの長方形の高まり（ベッド状遺構）や根太などが検出されているが、SI037では貯蔵穴周辺において、わずかな高まりが残る程度であった。掘り方から床面までの覆土は暗褐色土を主体とし、焼土及びローム粒子が少量混入する。掘り方はⅢ層を底面とし、中央部を高く作り出している。

出土遺物（第14図）：削平の影響により数は多くないが、貯蔵穴付近でまとまった量が検出された。遺物は全て土師器であり、遺物総量は3587.33gを計測した。

①～③は高杯である。①は残存高5.4cm、口径18.2cmをはかる。内外面にミガキを施す。②は残存高3.2cm、底径10.4cmをはかる。外面は縦位にハケ目、ミガキ。内面はナデである。4単位の穿孔を施す。③は残存高1.4cm、底径12.1cmをはかる。外面は縦位のミガキ、内面はナデ。④は埴である。丸底で、口径13.2cm、高さ15.3cmをはかる。頸部に縦位のミガキを施し、胴部は横位にミガキを施している。底面を除く外面全体、及び内面口縁部が赤彩されている。⑤・⑥は壺である。⑤は残存高14.2cm、底径は推定5.2cmをはかる。外面は縦・斜位のハケ目。底部周辺はナデを施す。⑥は胴部上半に斜位のハケ目、下半に横位のナデを施す。胴部中央は、焼成前に大きく穿孔されている。穿孔部の径は84mmの不整楕円形を呈している。⑦・⑧は甕である。

O13

P13



SI037

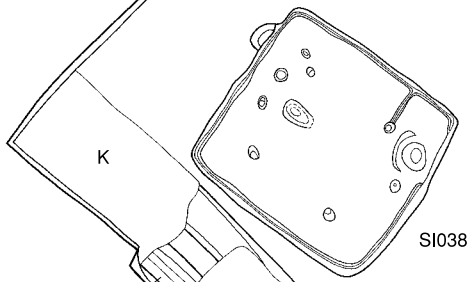


X=-62,660

O14

P14

Q14



SI038

SD001

X=-62,680

O15

P15

Q15



SI039

SD002

Y=15,640

Y=15,660

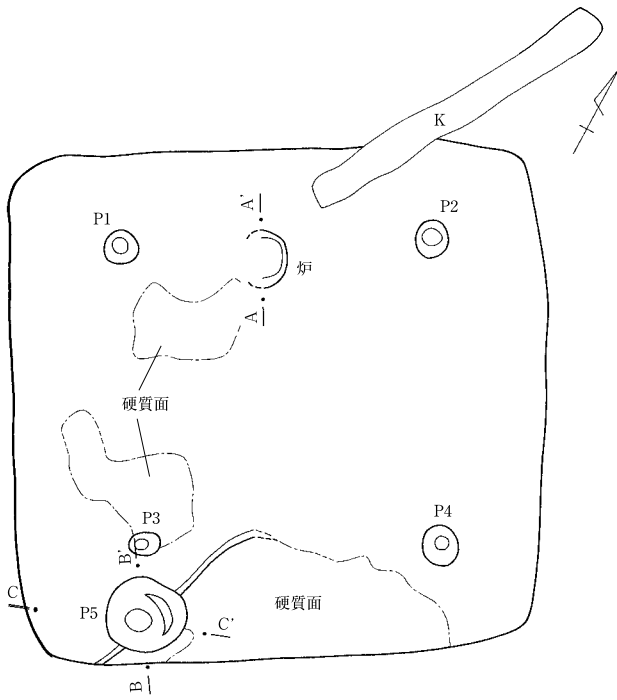
第4図 中六遺跡(14)全体図 (S=1/200)

X=-62,700

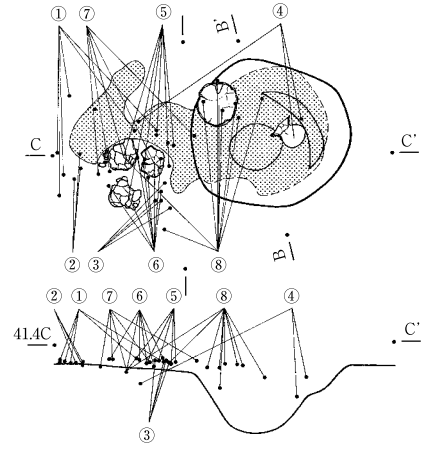
O16

P16

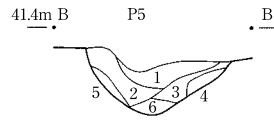
Q16



平面図 (S=1/80)



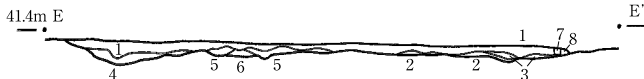
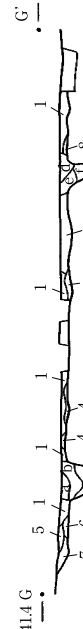
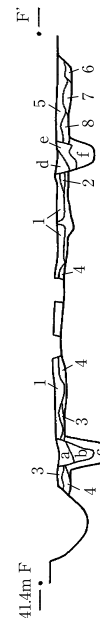
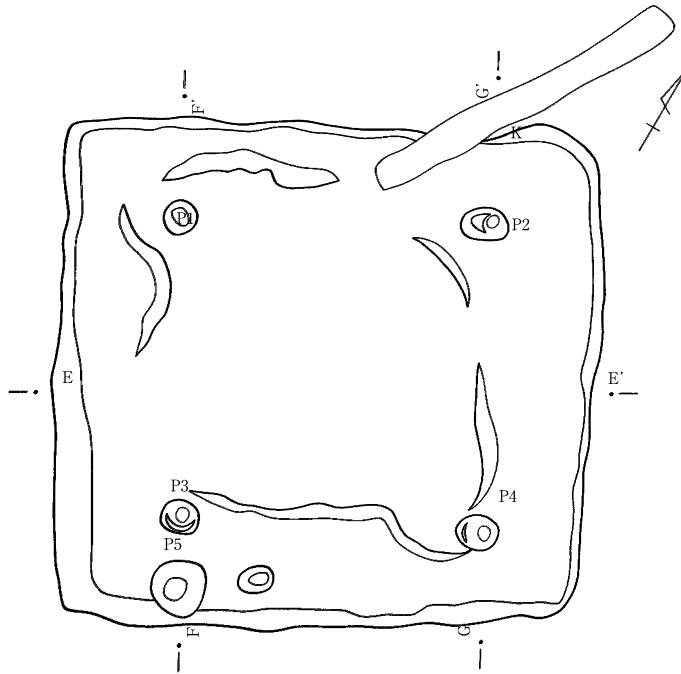
遺物出土状況 (S=1/40)



セクション図 (S=1/40)

- 1 暗褐色土 焼土ブロック多く混入
- 2 褐色土 炭化物 (5mm) 少量混入
- 3 暗褐色土 ロームが斑状に混入
- 4 褐色土 黒褐色土混じり
- 5 褐色土 黒褐色土混じり
- 6 黒褐色土 ロームブロック少量混入

第5図 S I 037床面完掘・遺物出土状況図



- 1 黒褐色土 ローム粒 (2~3mm) 多く混入
- 2 暗褐色土 ローム粒 (1~2mm) 多く混入
- 3 暗褐色土 ローム粒 (1~2mm) 多く混入
- 4 明褐色土 褐色土混じり
- 5 明褐色土 ローム粒 (2~3mm) 多く混入
- 6 明褐色土 じまり強い、黒褐色土混じり
- 7 明褐色土 褐色土混じり
- 8 明褐色土 褐色土混じり

- 1 褐色土 ロームが斑状に混入
- 2 暗褐色土 焼土粒 (3~5mm) 少量混入
- 3 暗褐色土 ロームが斑状に混入
- 4 暗褐色土 ロームが斑状に混入
- 5 明褐色土 じまり強く、褐色土混じり
- 6 明褐色土 じまり強く、褐色土混じり
- 7 明褐色土 焼土粒 (1~2mm) 少量混入
- 8 明褐色土 焼土粒 (3~5mm) 少量混入

- 1 暗褐色土 ローム粒 (2~3mm) 少量混入、一部硬質化する
- 2 暗褐色土 褐色土混じり
- 3 黒褐色土 ローム粒 (2~3mm) 少量混入
- 4 褐色土
- 5 明褐色土 黒色土混じり
- 6 明褐色土 褐色土混じり
- 7 褐色土
- 8 黒褐色土 ローム粒 (2~3mm) 少量混入

第6図 S I 037掘り方完掘状況図 (S=1/80)

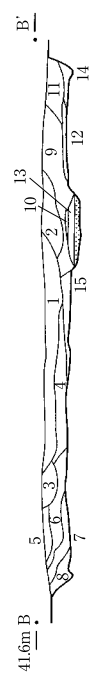
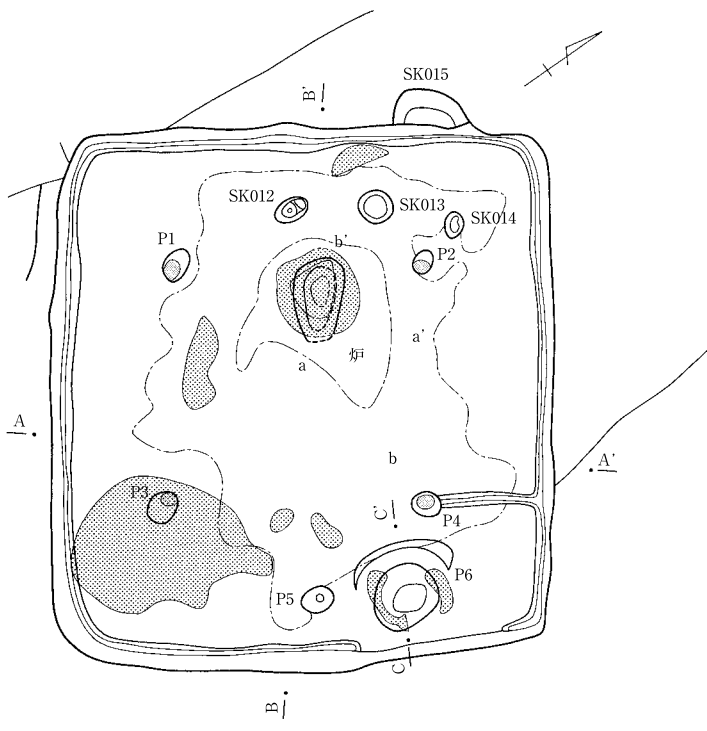
⑦は残存高5.8cm、底径14.5cmをはかる。外面は斜・縦位のハケ目。内面はナデ、ミガキを施す。⑧は口辺部内外面に横位のハケ目を施し、胴部上半は斜位のハケ目。胴部下半は横位のナデを施す。底径6.5cm、高さ21.1cmをはかる。

S I O 3 8

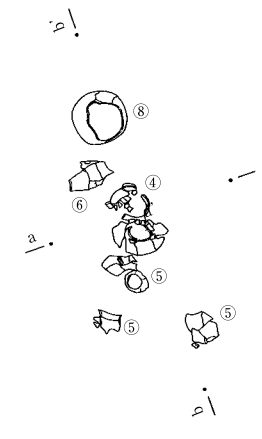
遺構（第7～9図）：O14グリッドに位置している。漸移層中にはっきりとした暗褐色土が堆積しており、検出は容易であった。平面形態は隅丸方形であり、長軸長5.8m、短軸長5.3mと、若干縦長である。主軸はN-60°-Wを向く。壁面は70°で立ち上がり、残存する高さは0.20m前後である。床面には貯蔵穴1基、柱穴4基、梯子穴1基が検出された。床面は硬質面が大きく広がり、特に住居中央部で顕著である。壁際には0.1mほどの周溝がほぼ全周するが、東コーナー付近で途切れる。貯蔵穴は直径0.6mほどの円形を呈し、深さ0.6mをすり鉢状に掘り込む。覆土上層には甕が出土されている。貯蔵穴の北側には高さ0.05mほどの段が円弧状に作られる。柱穴はほぼ正方形に配置され、床面からの深さは0.7～0.8m程度であり、ハードローム層（IV層）に達していた。柱穴が残存しており、幅0.15m程度である。P2には深さ0.04mほどの根太が連結する。炉は住居中央部からやや北西よりから検出された。長楕円形を呈し、火床は被熱により硬化しており、火床直上には焼土が堆積していた。梯子穴は住居南東壁付近で検出された。柱痕は約50°の角度で傾いており、そこから推定される壁高は1.0mとなる。覆土下部には焼土が堆積していた。炭化材も多く、焼失したと思われる。遺物は中央部に多く、壁際にはほとんど見られなかった。掘り方は中央部を高く、壁際を低く作り出している。住居内にはいくつかの土坑があるが、これらは住居の覆土を掘り込んでいた。

出土遺物（第14・15図）：出土した土器は全て土師器である。多くは床面上から出土し、覆土上層からはほとんど出土しなかった。住居中央部、及び貯蔵穴周辺から多く出土し、壁際からは出土していない。

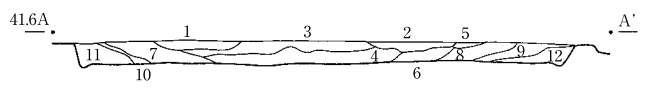
①は鉢と思われる。残存高2.3cm、底径3.8cmをはかる。内外面ともナデが施されている。②は炉器台である。残存高3.6cm、径6.4cmをはかる。受部上面には径2cm程度の孔が作られている。外面は縦位のミガキ、上面はナデにより調整している。③は台付甕である。残存高11.6cm、口径11.8cmをはかる。外面は縦・横位のナデ、口頸部は横位にナデを施す。内面は横位のハケ目、ナデにより調整される。台部は残存部が少ないために不明瞭だが、内面にはケズリを施している。④～⑦は甕である。④は高さ15.3cm、底径6.8cm、口径15.6cmをはかる。外面は横位・斜位にナデ、内面は横位のナデを施す。⑤は高さ20.5cm、底径5.5cm、口径17.1cmをはかる。内外面ともにナデ、内面はハケ目の後にナデを施している。⑥は高さ23.9cm、底径5.4cm、口径15.7cmをはかる。胴部外面は斜位のハケ目、内面は横位にナデを施す。口頸部は横位のナデにより調整される。⑦は高さ21.5cm、底径6.7cm、口径15.3cmをはかる。胴部外面にはハケ目の後に横位のナデにより調整される。口頸部は内外面ともに横位のナデが施される。⑧・⑨は壺である。⑧は底径7.5cm、残存高20.1cm、胴部径は25.3cmをはかる。外面全体にミガキ、内面は斜位のナデを施す。⑨は底径6.4cm、器高25.2cmをはかる。⑧と同様、外面全体にミガキ、内面はナデを施す。その他、砥石が1点出土している。



- | | | | |
|--------|-------------------|---------|-------------------|
| 1 暗褐色土 | ロームが斑状に混入 | 9 暗褐色土 | ロームが斑状に混入 |
| 2 暗褐色土 | 焼土粒 (径1~2mm) 少量混入 | 10 白灰土 | |
| 3 暗褐色土 | 焼土粒 (2~3mm) 少量混入 | 11 黒褐色土 | ローム粒 (2~3mm) 少量混入 |
| 4 黒褐色土 | ロームが多く混入 | 12 暗褐色土 | 暗褐色土混じりの焼土層 |
| 5 暗褐色土 | ロームが多く混入 | 13 赤色土 | 褐色土混じりの焼土層 |
| 6 暗褐色土 | 焼土粒 (径1~2mm) 少量混入 | 14 暗褐色土 | ロームが斑状に混入 |
| 7 明褐色土 | ロームアロップ混入 | 15 赤色土 | 暗褐色土混じりの焼土層 |
| 8 黒褐色土 | | | |

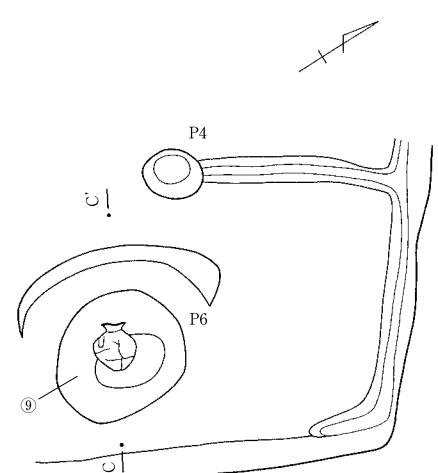


遺物出土状況① (S=1/40)

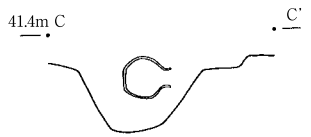


- | | | | |
|--------|------------------|---------|------------------|
| 1 暗褐色土 | 焼土粒 (1~2mm) 少量混入 | 7 暗褐色土 | ロームが斑状に少量混入 |
| 2 暗褐色土 | 焼土粒 (2~3mm) 少量混入 | 8 黒褐色土 | 焼土が少量混入 |
| 3 暗褐色土 | ロームが斑状に多く混入 | 9 暗褐色土 | 焼土が多く混入 |
| 4 黒褐色土 | ロームが斑状に多く混入 | 10 焼土層 | 黒褐色土混じり |
| 5 暗褐色土 | 焼土粒 (1~2mm) 混入 | 11 暗褐色土 | 炭化物 (2~3mm) 少量混入 |
| 6 明褐色土 | 黒色土混じり | 12 暗褐色土 | 炭化物 (2~3mm) 少量混入 |

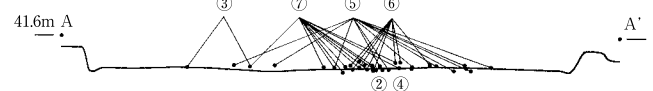
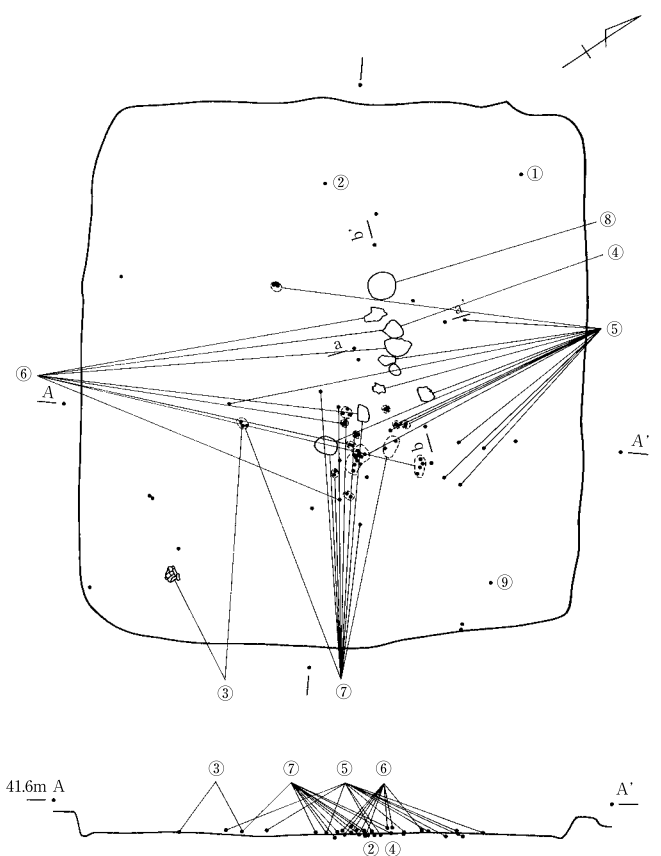
床面完掘 (S=1/80)



SI038 貯蔵穴

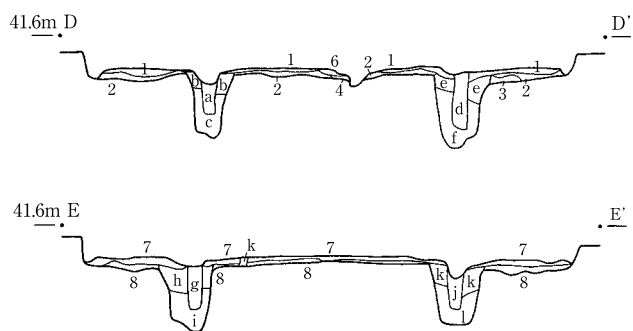
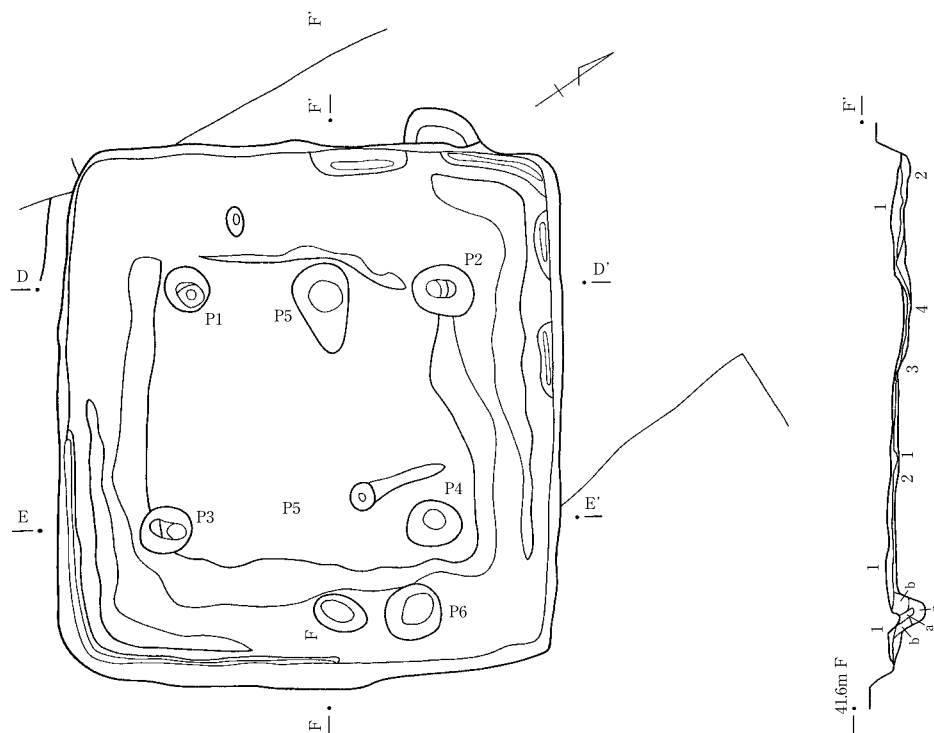


遺物出土状況② (S=1/40)



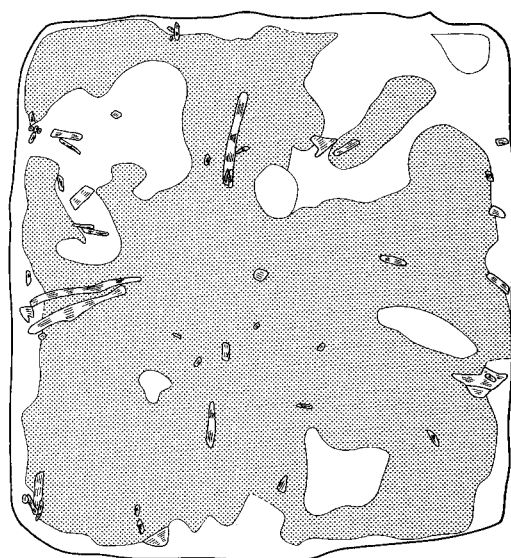
遺物出土状況③ (S=1/80)

第7図 S I 038床面完掘・遺物出土状況図



第8図 S I 038掘り方完掘状況図 (S=1/80)

- | | | | |
|--------|--------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色土 | ロームブロックが多く混入 強くしまる | a 黒褐色土 | しまり弱い 焼土粒 (2~3mm) 少量混入 |
| 2 明褐色土 | 強くしまる | b 褐色土 | 黒褐色土混じり |
| 3 黒褐色土 | ロームブロック多く混入 強くしまる | c 暗褐色土 | |
| 4 褐色土 | 黒色土混じり | d 黒褐色土 | しまり弱い 焼土粒 (2~3mm) 少量混入 |
| 5 明褐色土 | 強くしまる | e 褐色土 | 黒褐色土混じり |
| 6 赤色土 | 比熱し硬化する | f 黒褐色土 | ロームブロック多く混入 |
| 7 暗褐色土 | ロームブロックが多く混入 強くしまる | g 黒褐色土 | しまり弱い 焼土粒 (2~3mm) 少量混入 |
| 8 明褐色土 | 強くしまる | h 褐色土 | 黒褐色土混じり |
| | | i 暗褐色土 | |
| | | j 黒褐色土 | しまり弱い 焼土粒 (2~3mm) 少量混入 |
| | | k 褐色土 | |
| | | l 暗褐色土 | |



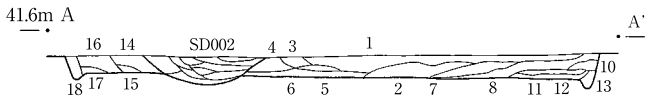
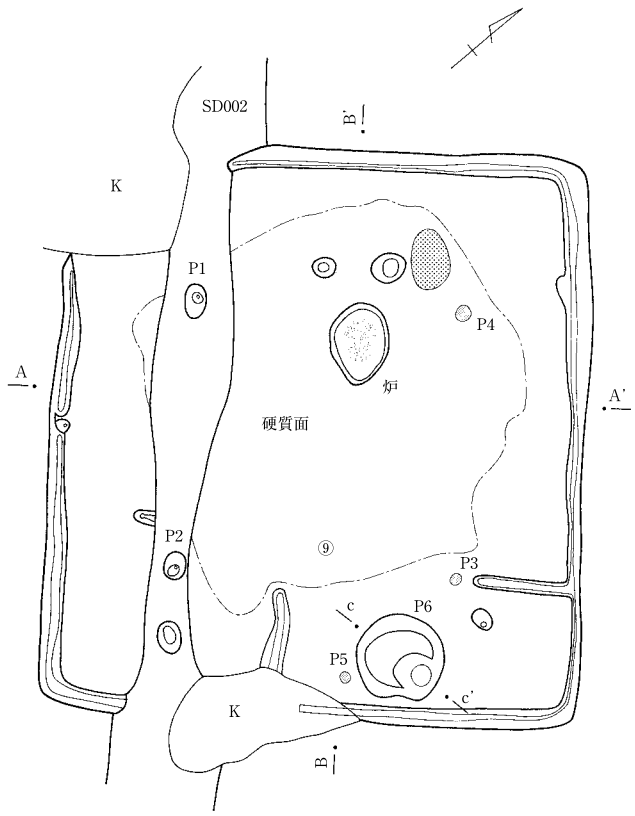
第9図 S I 038焼土・炭化材分布図 (S=1/80)

S I 0 3 9

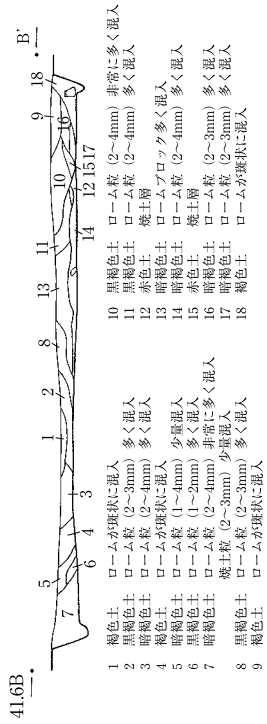
遺構（第10～12図）：O15グリッドに位置している。覆土は暗褐色土を主体としており、明瞭に検出できた。平面形態は隅丸方形であり、長軸長6.0m、短軸長5.2mと、やや長方形である。主軸はN-50°-Wを向く。壁面は80°で立ち上がり、残存する壁高さは0.20m前後である。床面には貯蔵穴1基、柱穴4基、梯子穴1基が検出された。床面には硬質面が大きく広がり、幅0.10mほどの周溝が全周していたと思われる。一部は攪乱、及びSD002と重複している。貯蔵穴はSI037、SI038に対し、竪穴住居中央に寄って位置している。径0.85mほどの円形であり、テラスを作って掘り込まれる。深さは0.40mほどである。4基の柱穴は正方形に配置され、柱間は3m前後である。硬質面は大きく広がり、柱穴の後ろまで広がっている。根太が2条、北東・南東壁から延びている。炉は住居中央、やや北西よりに設置されている。丸底に掘りこみ、堆積している焼土の下は被熱し、硬化していた。住居内覆土は焼土が層となり、堆積していた。炭化材も多く、焼失したと思われる。焼土は住居中央には見られず、壁面付近に多く堆積していた。梯子穴は南東壁近く、中央部に位置している。柱痕が残存しており、約60°の角度で壁に向かい傾斜している。推定される壁高は約0.7mである。掘り方は中央部を高く、周囲を低く作り出している。

出土遺物（第15・16図）：出土した土器は全て土師器である。総重量は7,855.62gである。その他、鉄器（刀子）が1点、小礫が129点（711.59g）出土した。遺物は殆どが焼土層の下、床面から出土している。炉、及び貯蔵穴付近に多く、住居中央にはあまり見られない。

①は小型の鉢である。高さ4.1cm、底径5.6cm、口径9.1cmをはかる。外面は縦位のハケ目の後、横位にナデを施す。内面は横位のハケ目調整の後、縦位のミガキを施している。②は小型の皿である。平底であり、高さ8.6cm、底径3.3cm、口径9.4cmをはかる。胴部外面は縦位のナデ、一部に横位のミガキを施す。口辺部は横位のナデ、内面は斜位・横位のナデを施す。③は高杯である。残存高4.3cmをはかる。脚部外面は縦位のナデ、内面には横位のナデを施す。④～⑥は炉器台である。④は高さ13.8cm、裾部径13.3cm、口径5.2cm、内径2.0cmをはかる。外面は縦位のケズリ、内面は横位のナデを施す。胴部が歪み、中央が凹んでいる。底面は楕円形を呈し、短径は11cmである。⑤は高さ13.4cm、裾部径13.4cm、受部径7.0cmをはかる。外面は縦位のケズリを施す。口辺は凹凸が大きい。内面は横位に削る。胴部が歪んでおり、中央が凹んでいる。⑥は高さ12.1cm、裾部径13.1cm、受部径7cmをはかる。内外面に縦位のケズリを施している。⑧は高杯である。高さ12.4cm、裾部径11.4cm、受部径20.5cmをはかる。全体的にミガキが施されており、脚部上部には縦位のナデを残す。脚部には4単位の穿孔を施す。⑦・⑨～⑬は甕である。⑦は高さ13.2cm、底径4.6cm、口径14.2cmをはかる。外面は斜位のハケメの後に、多方向からミガキを施す。口縁部は斜位のハケメの後に、横位にミガキを施す。被熱によるものか、内面の表面に剥落する箇所が見られる。底面中央、及びその周辺に、3ヶ所の穿孔が見られる。穿孔は焼成後に施されているが、用途については不明である。⑨は高さ14.4cm、底径7.2cm、口径15.6cmをはかる。外面及び、口縁部内面をハケ目により調整している。底部と胴部で接合しているのだが、色調が異なっている。底部は暗褐色であり、胴部は赤褐色を帯びる。底部が割れた後の、被熱の状況が異なるのかもしれない。⑩は高さ17.4cm、底径16.4cm、口径17.8cmをはかる。口縁部は内外面ともに横位のナデを施す。胴部外面は縦位のナデ、内面は横位のナデを施す。被熱によるものか、全体が赤化し、一部の表面が剥落し、器形が多少歪んでいる。⑪は高さ21.1cm、底径5.0cm、口径15.9cmをはかる。口辺部には横位のナデ、胴部上半には斜位、下半には縦位のハケメにより調整される。⑫は高さ24cm、底径7.4cmをはかる。外面

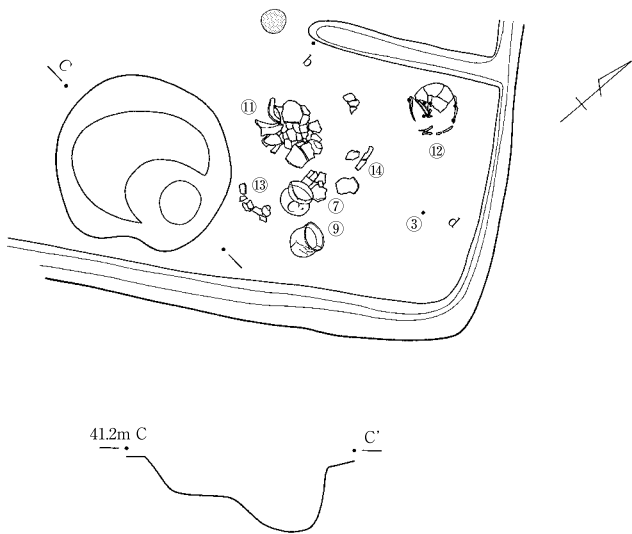
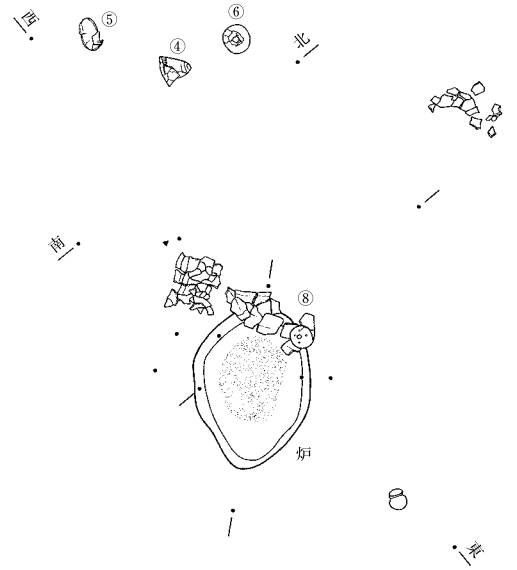


床面完掘状況 (S=1/80)

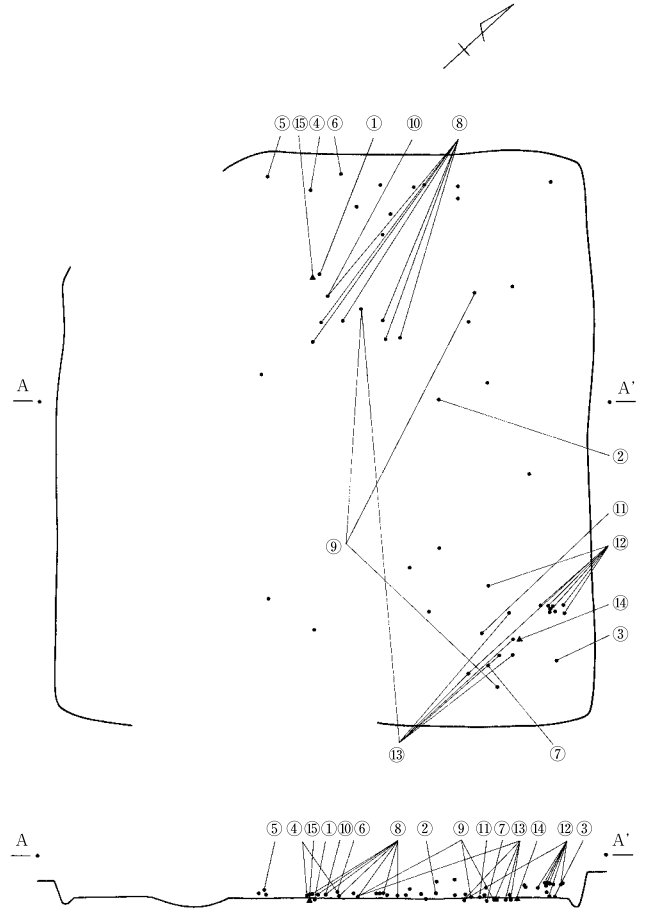


- | | | |
|----|------|-------------------|
| 1 | 暗褐色土 | ロームブロック多く混入 |
| 2 | 褐色土 | ロームブロック多く混入 |
| 3 | 褐色土 | ローム粒 (1~3mm) 多く混入 |
| 4 | 褐色土 | ロームが斑状に混入 |
| 5 | 黒褐色土 | ローム粒 (1~3mm) 多く混入 |
| 6 | 黒褐色土 | ロームブロック多く混入 |
| 7 | 暗褐色土 | ローム粒 (4~5mm) 多く混入 |
| 8 | 暗褐色土 | ロームブロック少量混入 |
| 9 | 黒褐色土 | ローム粒 (1~2mm) 多く混入 |
| 10 | 暗褐色土 | ロームが斑状に混入 |
| 11 | 暗褐色土 | ロームが斑状に混入 |
| 12 | 暗褐色土 | ロームが斑状に混入 |
| 13 | 暗褐色土 | ロームが斑状に混入 |
| 14 | 暗褐色土 | ロームが斑状に混入 |
| 15 | 暗褐色土 | ロームが斑状に混入 |
| 16 | 暗褐色土 | ロームが斑状に混入 |
| 17 | 暗褐色土 | ロームが斑状に混入 |
| 18 | 暗褐色土 | ロームが斑状に混入 |

遺物出土状況① (S=1/40)

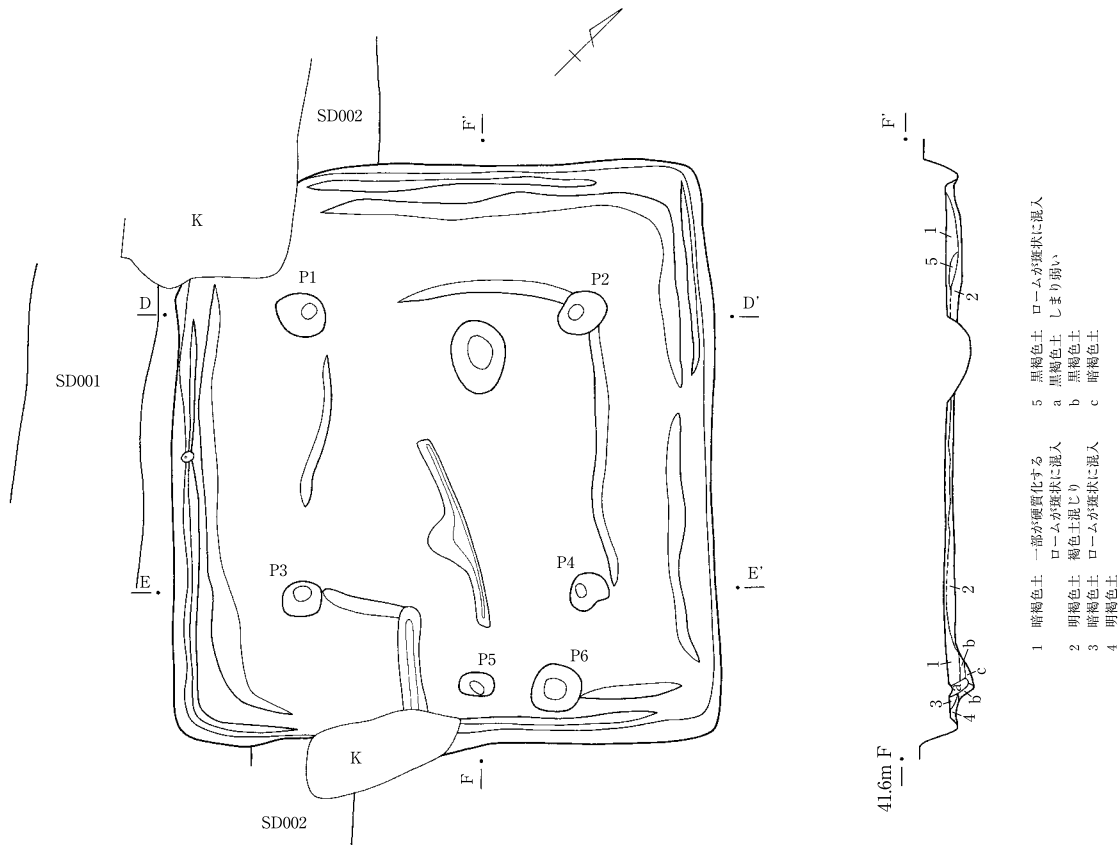


遺物出土状況② (S=1/40)

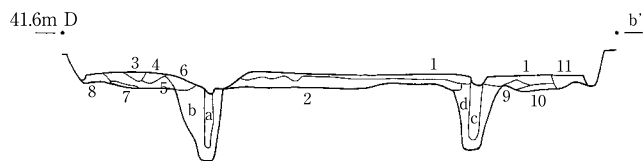


遺物出土状況 (S=1/80)

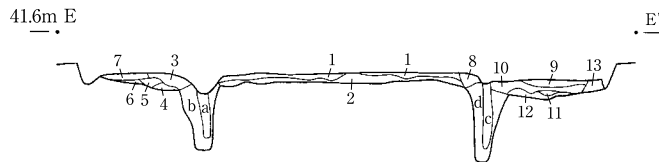
第10図 S I 039床面完掘・遺物出土状況図 (S=1/80)



- 5 黒褐色土 ロームが斑状に混入
- a 黒褐色土 しまり弱い
- b 黒褐色土
- c 暗褐色土
- 1 暗褐色土 一部分が硬質化する
- a ロームが斑状に混入
- 2 暗褐色土 褐色土混じり
- 3 暗褐色土 ロームが斑状に混入
- 4 明褐色土



第11図 S I 039掘り方完掘状況図 (S=1/80)



- 1 暗褐色土 ロームが斑状に混入 一部分が硬質化する
- 2 明褐色土 褐色土混じり
- 3 褐色土 暗褐色土混じり
- 4 暗褐色土 ローム粒 (23~mm) 多く混入
- 5 黒褐色土 ロームブロック多く混入 硬くしまる
- 6 褐色土 暗褐色土混じり
- 7 暗褐色土 ロームが斑状に混入
- 8 暗褐色土 焼土粒 (2~3mm) 極少量混入 炭化物 (2~3mm) 極少量混入
- 9 黒褐色土 ロームが斑状に混入
- 10 暗褐色土 褐色土混じり
- 11 褐色土
- 12 暗褐色土 ロームブロック多く混入、硬質化する
- 13 明褐色土 褐色土混じり
- 14 暗滑翔土 焼土粒 (2~3mm) 少量混入
- 15 明褐色土 褐色土混じり
- 16 黒褐色土 ロームブロック多く混入
- 17 褐色土 黒褐色土混じり
- 18 明褐色土 黒褐色土混じり
- 19 暗褐色土 炭化物 (2~3mm) 多く混入
- 20 暗褐色土 焼土粒 (2~3mm) 極少量混入
- 21 暗褐色土 9と近似するが、わずかに明るい
- 22 黒褐色土 ローム粒 (2~3mm) 多く混入
- 23 明褐色土 黒褐色土混じり
- 24 褐色土 黒色土混じり
- a 黒褐色土 しまり弱い、炭化材が混入
- b 明褐色土 炭化材が少量混入、ロームブロック多く混入
- c 黒褐色土 しまり弱い、炭化物 (2~3mm) 少量混入
- d 褐色土 炭化物 (2~3mm) 多く混入 焼土粒 (2~3mm) 多く混入
- e 暗褐色土 しまり弱い、ハード化したロームブロック混入
- f 褐色土 炭化物 (2~3mm) 多く混入
- g 暗褐色土 しまり弱い、ローム粒 (3~4mm) 多く混入
- h 褐色土 焼土粒 (2~3mm) 極少量混入 炭化物 (2~3mm) 少量混入



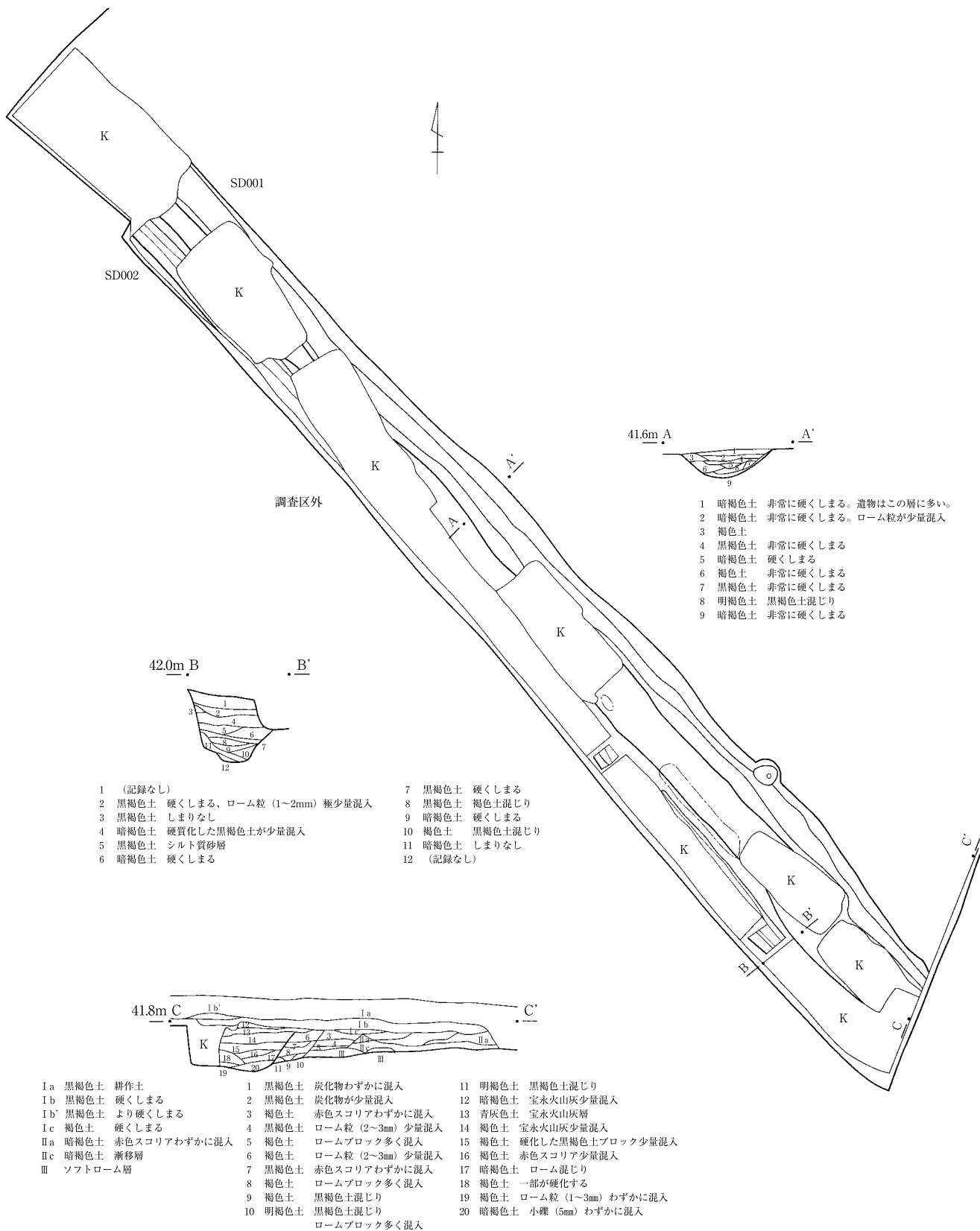
第12図 S I 039焼土・炭化材分布図 (S=1/80)

は斜位・縦位のハケメにより調整される。底部付近はハケメの後に縦位のナデ、口辺部はハケメの後に横位のナデを施している。また、底面には木葉痕が見られる。⑬は高さ20.8cm、底径7.2cm、口径18.4cmをはかる。胴部外面は縦位のナデ、内面は横位のナデを施す。口辺部は内外面ともに横位のナデを施す。被熱によるものか、表面の一部に剥落が見られる。また、底面には木葉痕が見られる。⑭は刃子である。切先と刀身の2つが出土したが、厚さ・幅から同一個体と思われる。切先部は長さ4.0cm、厚さ1.5～2.0mm、刀身部は長さ13.1cm、厚さ2.8～3.0mmをはかる。

出土遺物一覧表

遺構	土師器 (g)					鉄製品		石製品	
	甕	壺	鉢	高杯・器台	埴	点	重量 (g)	点数	重量 (g)
SI037	2381.84	940.72		264.77	503.52				
	1489.34	911.78		185.20					
SI038	6216.21	4152.97	28.06	222.04				2	39.24
	5143.53	4146.75	28.06	120.45					
SI039	5918.66		79.41	1654.22	203.33	2	26.96		
	5107.35		79.41	1646.86	203.33	2	26.96	129	711.59
SD001	156.57			129.61				1	5.43
				97.02					
SD002	115.78			2.40					
13N (グリッド)	19.90					1	2.79		
表採	28.11								

※上段は総重量、下段は実測個体重量



- 1 暗褐色土 非常に硬くしまる。遺物はこの層に多い。
- 2 暗褐色土 非常に硬くしまる。ローム粒が少量混入
- 3 褐色土
- 4 黒褐色土 非常に硬くしまる
- 5 暗褐色土 硬くしまる
- 6 褐色土 非常に硬くしまる
- 7 黒褐色土 非常に硬くしまる
- 8 明褐色土 黒褐色土混じり
- 9 暗褐色土 非常に硬くしまる

- 1 (記録なし)
- 2 黒褐色土 硬くしまる、ローム粒(1~2mm)極少量混入
- 3 黒褐色土 しまりなし
- 4 暗褐色土 硬質化した黒褐色土が少量混入
- 5 黒褐色土 シルト質砂層
- 6 暗褐色土 硬くしまる
- 7 黒褐色土 硬くしまる
- 8 黒褐色土 褐色土混じり
- 9 暗褐色土 硬くしまる
- 10 褐色土 黒褐色土混じり
- 11 暗褐色土 しまりなし
- 12 (記録なし)

- | | | |
|------------------------|------------------------|--------------------------|
| I a 黒褐色土 耕作土 | 1 黒褐色土 炭化物わずかに混入 | 11 明褐色土 黒褐色土混じり |
| I b 黒褐色土 硬くしまる | 2 黒褐色土 炭化物が少量混入 | 12 暗褐色土 宝永火山灰少量混入 |
| I b' 黒褐色土 より硬くしまる | 3 褐色土 赤色スコリアわずかに混入 | 13 青灰色土 宝永火山灰層 |
| I c 褐色土 硬くしまる | 4 黒褐色土 ローム粒(2~3mm)少量混入 | 14 褐色土 宝永火山灰少量混入 |
| II a 暗褐色土 赤色スコリアわずかに混入 | 5 褐色土 ロームブロック多く混入 | 15 褐色土 硬化した黒褐色土ブロック少量混入 |
| II c 暗褐色土 漸移層 | 6 褐色土 ローム粒(2~3mm)少量混入 | 16 褐色土 赤色スコリア少量混入 |
| III ソフトローム層 | 7 黒褐色土 赤色スコリアわずかに混入 | 17 暗褐色土 ローム混じり |
| | 8 褐色土 ロームブロック多く混入 | 18 褐色土 一部が硬化する |
| | 9 褐色土 黒褐色土混じり | 19 褐色土 ローム粒(1~3mm)わずかに混入 |
| | 10 明褐色土 黒褐色土混じり | 20 暗褐色土 小礫(5mm)わずかに混入 |
| | | ロームブロック多く混入 |

第13図 SD001・002 完堀状況図(平面図S=1/160、セクション図S=1/80)

SD001・002

遺構（第13図）：調査区の南西端に沿って延びる溝状遺構である。一部ではあるが硬質面が観察され、道路であったと推定される。検出された幅は1 m程度だが、調査区南西端のセクション図では、約3 mの幅がある。SD002がSD001の後に作成された痕跡がセクション図から伺える。また、何度も作り直し、南西側へ移動しているようである。第1次調査（1987年、君津郡市文化財センター）における1・2号溝状遺構の延長と考えられる。大部分が攪乱に覆われており、特にSD002は大部分が破壊されていた。覆土直上には宝永の火山灰が堆積しており、近世まで使用されていたと思われる。また、現在使用されている道路（袖ヶ浦市道蔵波鎌倉街道線）と並行している。

出土遺物（第16図）：全て土師器片であり、近世の遺物は出土していない。土師器は古墳時代堅穴住居に属するものが流れ込んだと思われる。図示したものは高杯である。残存高5.1cmをはかる。外面は縦位のナデにより調整されている。

第3章 総括

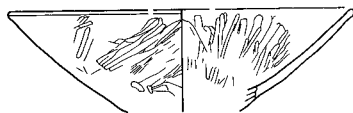
今回行われた中六遺跡第14次調査では、古墳時代前期の堅穴住居が3軒検出された。第12次調査において検出された26軒の堅穴住居と一連の集落であると考えられる。現在、中六遺跡は18次に及ぶ調査が行われており、やはり古墳時代前期に該当する堅穴住居が検出されている。（第15・17次調査は平成24年度袖ヶ浦市市内遺跡報告書にて報告予定）

詳細については今後刊行予定の報告書にて明らかになると思われるが、堅穴住居は古墳時代前期のみのようである。序章にて述べたが、美生遺跡群第1地点などでは、古墳時代前期から後期にいたるまで継続的に集落が営まれていたが、中六遺跡を含む周辺の古墳時代前期集落は、古墳時代後期まで継続しないものが多い。また、中六遺跡では住居に重複関係がほとんどない。比較的短期間のみしか居住していなかったのかもしれない。なぜ中六遺跡は廃棄され、その住民がどこへ移り住んだのか、これらの集落全体については、現在調査・整理作業中の他地点の報告を待ちたい。

今回検出された3軒の堅穴住居のうち、SI038・SI039の2軒は焼土の堆積・炭化材の多さから、焼失家屋と考えられる。遺物は焼土に覆われており、不意に出火したために住居が破棄されたのかもしれない。

鉄製品は3軒のうち1軒から出土しており（SI039）、保有率は33.3%を占める。第12次調査と同様に、鉄製品の保有率の高さを示していると思われる。

SI037



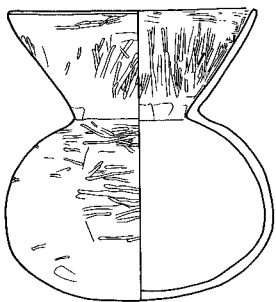
①



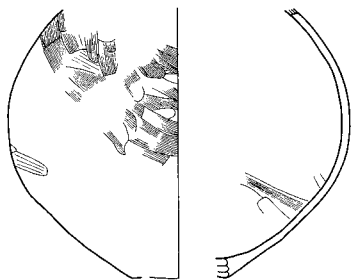
②



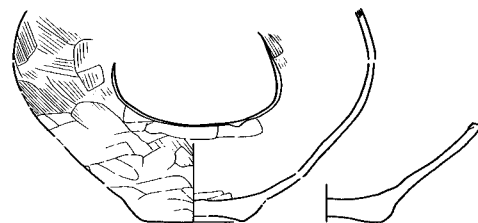
③



④

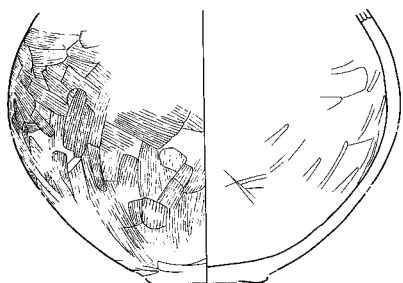


⑤

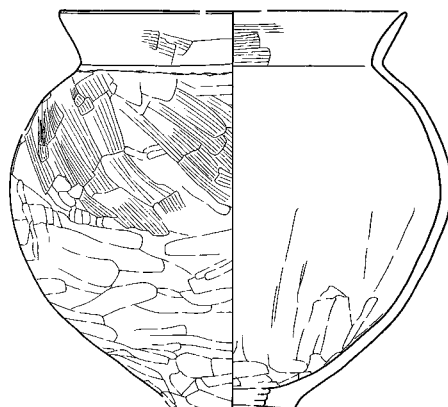


⑥

穿孔箇所断面

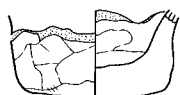


⑦



⑧

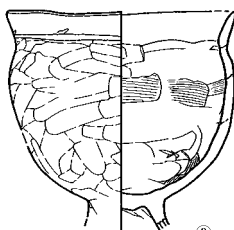
SI038



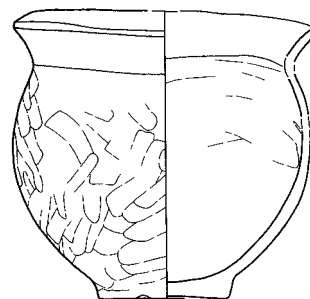
①



②



③



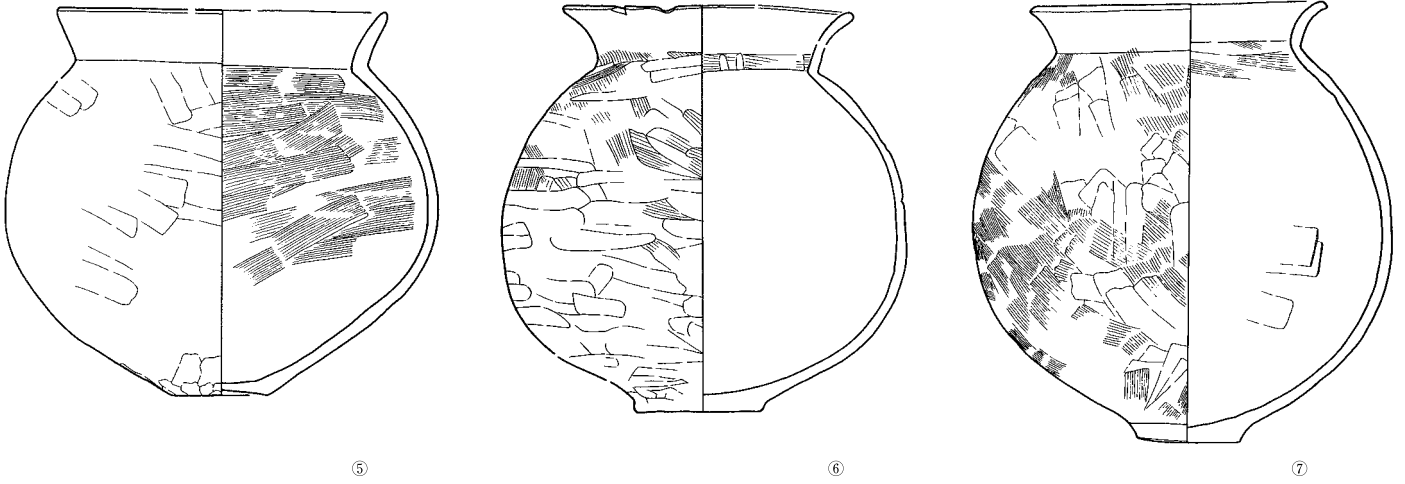
④

0 (1 : 4) 20cm

0 (1 : 2) 10cm

SI038①

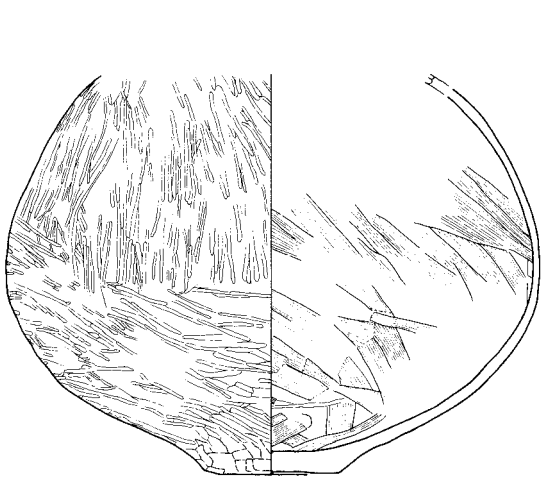
第14图 出土遺物実測図1



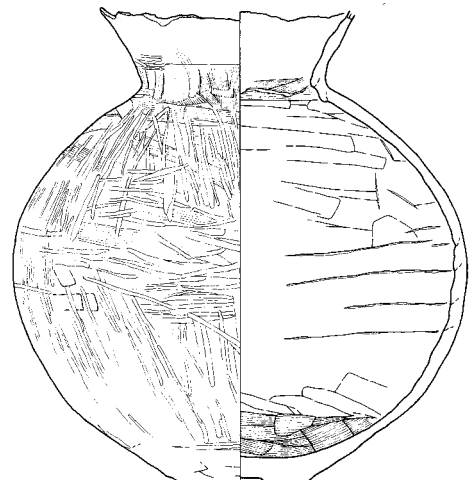
⑤

⑥

⑦

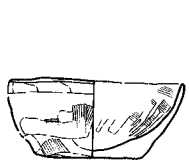


⑧

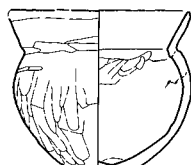


⑨

SI039



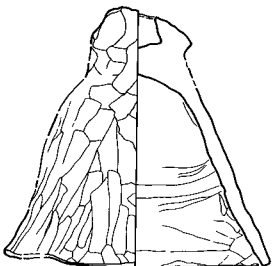
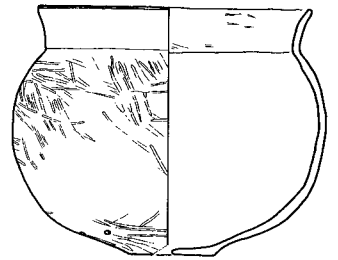
①



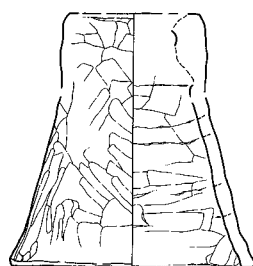
②



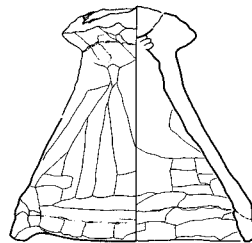
③



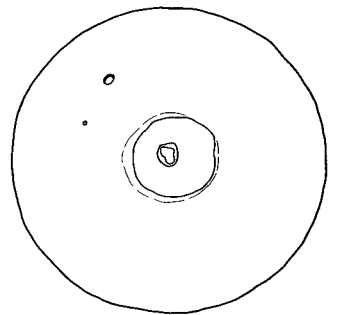
④



⑤

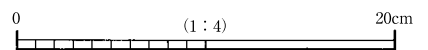


⑥

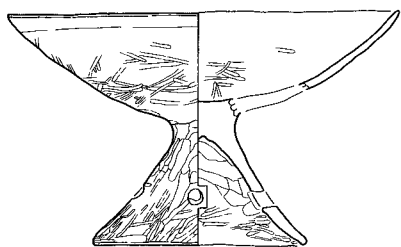


⑦

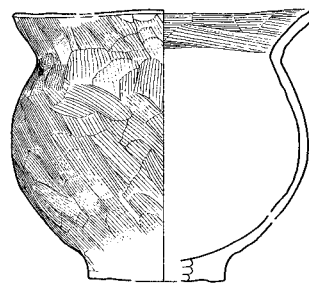
第15图 出土遺物実測図 2



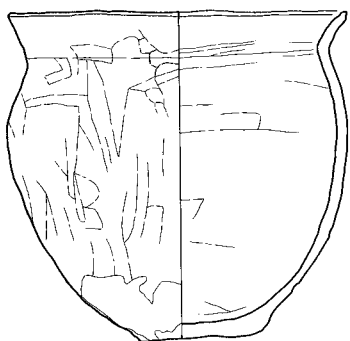
SI039



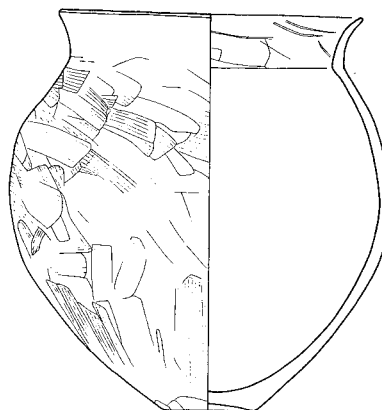
⑧



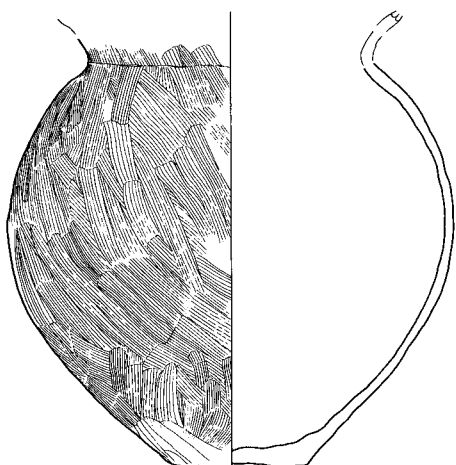
⑨



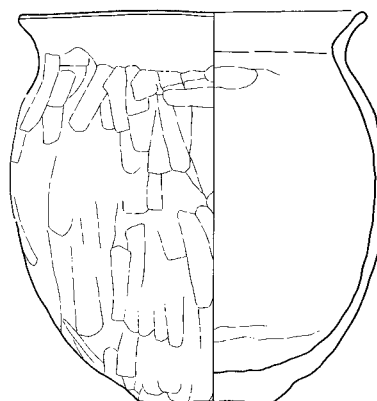
⑩



⑪

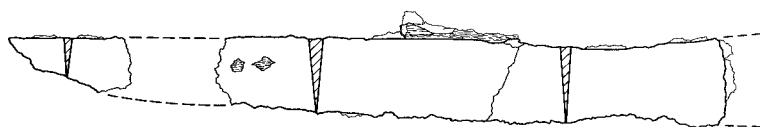


⑫

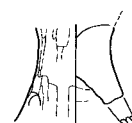


⑬

SD001



⑭+⑮



⑰

第16图 出土遺物実測図3

0 (1:4) 20cm

0 (1:2) 10cm

SI039 ⑭、⑮

写 真 图 版

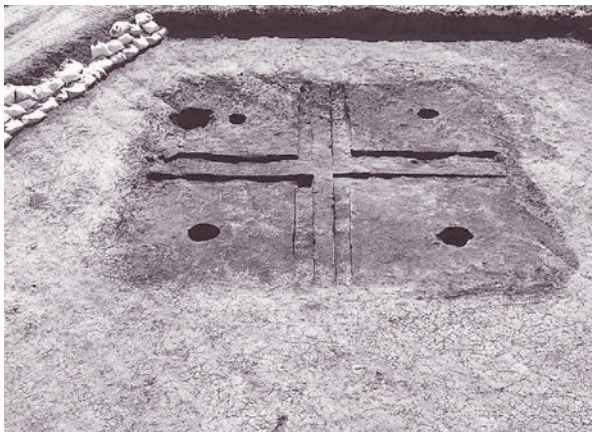
図版 1



調査前全景 (南→)



SI037 遺物出土 (東→)



SI037 床面完掘 (東→)



SI037 掘り方完掘 (南→)



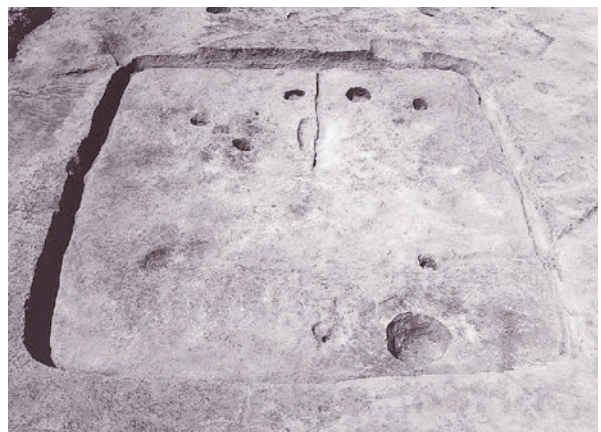
SI038 焼土・炭化材 (南東→)



SI038 遺物出土 1 (北→)



SI038 遺物出土 2 (北東→)



SI038 床面完掘 (南東→)



SI038 掘り方完掘 (南東→)



SI039 焼土層 (南東→)



SI039 遺物出土1 (東→)



SI039 遺物出土2 (南→)



SI039 床面完掘 (北西→)



SI039 掘り方完掘 (北→)



SD001-002 完掘 (北西→)



調査区南東壁セクション (北西→)

图版 3





SI038-⑦



SI038-⑧



SI039-④



SI039-⑥



SI038-⑨



SI039-⑧



SI039-①



SI039-⑦



SI039-②



SI039-⑦

图版 5



報 告 書 抄 録

ふりがな	ちゅうろいせき (14) はくつちようさほうこくしょ							
書 名	中六遺跡 (14) 発掘調査報告書							
副 書 名	蔵波地区宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	袖ヶ浦市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第17集							
編 著 者 名	田中大介・前田雅之							
編 集 機 関	袖ヶ浦市教育委員会							
所 在 地	〒299-0292 千葉県袖ヶ浦市坂戸市場1-1 TEL 0438-62-2111							
発 行 機 関	袖ヶ浦市教育委員会							
所 在 地	〒299-0292 千葉県袖ヶ浦市坂戸市場1-1 TEL 0438-62-2111							
発行年月日	西暦2013年3月15日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所 在 地	コ ー ド 市町村 遺跡番号		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
ちゅうろいせき 中六遺跡	ちばけんそでがうらしくらのなみあざ 千葉県袖ヶ浦市蔵波字 ちゅうろ 中六1295番地28他	12229	SG011	35°25'54"	140°00'31"	20110822 ～ 20110930	664/ 2,000㎡	記録保存
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項			
中六遺跡	包蔵地	古墳時代 (前期) 近世	古墳時代前記 竪穴住居 近世溝状遺構	古墳時代土師器 古墳時代鉄製品	古墳時代の竪穴住居3軒のうち、2軒は焼土・炭化材が多く堆積しており、焼失住居と思われる。 溝状遺構は覆土に宝永火山灰が含まれており、近世のものと思われる。			
要 約	古墳時代前期に属する竪穴住居が3軒検出された。また、現在の道路と並行する溝状遺構が2条検出された。							

2013年3月12日 印刷

2013年3月15日 発行

平成24年度

千葉県

中六遺跡 (14)

— 蔵波地区宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書 —

発行 袖ヶ浦市教育委員会
〒299-0292
千葉県袖ヶ浦市坂戸市場1番地1
電話 0438-62-2111
印刷 有限会社 松井印刷所
千葉県君津久留里市場159番地